「原爆忌」と「原爆の日」

■新編集講座 ウェブ版　第129号　2019/8/1

毎日新聞社　技術本部長（元・大阪本社編集制作センター室長）　三宅　直人

8月を迎えました。6日の広島原爆の日、9日の長崎原爆の日、そして15日の終戦記念日と、戦争と平和について思いを巡らす季節です。このうち「原爆の日」については、記事も見出しも、かつては「原爆忌」という表現が普通だったように思いますが、近年は「原爆の日」という言い方を多用するようになっています。もちろん「原爆忌」が消えたわけではありませんが、使われ方は限定的です。これには、「忌」の宗教性を巡る議論がありました。

■　戦後 60 年が分岐点に

まずは昨年８月６日の夕刊１面を見ました。毎日**＝右図①＝**と朝日**＝右図②＝**は「広島原爆の日」という見出しですが、読売**＝右図③＝**は「原爆忌」の表現を用いています（※）。

※　毎日は広島を管内に持つ大阪本社紙面を、朝日と読売は縮刷版のある東京本社紙面を引用。以下同じ（特記を除く）。

以前は違いました。毎日新聞の過去の８月６日夕刊（当日が日曜の場合は翌７日朝刊）の１面を見ると、2000 年までは前文、見出しとも「原爆忌」を使っていました**＝右図④**。

ところが 01 年に前文が「原爆の日」に変わりました。見出しが「原爆忌」のままなので、気付きにくいかもしれません**＝右図⑤**。このスタイルが 04 年まで 4 年間続きます。

さらには 05 年に、つまり「戦後 60 年」の年に、見出しも「原爆の日」に変わり**＝右図⑥**、以降、現在に至ります。

■　仏教や死者追悼のイメージ

私は 2005 年当時、大阪本社に勤務していました。広島支局経験者や平和報道担当者から「原爆忌」の表現について、「『忌』というと、『一周忌』『三回忌』など仏教や死者追悼のイメージが強く、平和発信を目指す祈念式典の意義や理念を表現しきれない」「地元カトリック団体に抵抗感を覚える人もいる」という意見を聞いたのを覚えています。

広島市や長崎市などの行政団体も、近年は「原爆忌」ではなく「原爆の日」を使うようになっている現実もありました。まずは広島の声に敏感な出稿部門が記事に「原爆の日」を用いるようになり、次いで大阪本社の編集部門でも、見出しを「原爆の日」に変えた――というのが大体の経緯です。

①　2018年8月6日　毎日大阪夕刊1面

②　同日　朝日東京夕刊1面

③　同日　読売東京夕刊1面

④　2000年8月7日　毎日大阪朝刊1面

⑤　2001年8月6日　毎日大阪夕刊1面

⑥　2005年8月6日　毎日大阪夕刊1面

■ 毎日に先がけた朝日

ちなみに朝日の見出しを縮刷版でたどってみると、1980 年に１面で「原爆忌」を使っているのが確認できました**＝右図⑦**。

その後、87 年の１面見出しは「原爆の日」に変わっています**＝右図⑧**。この間、見出しに「原爆忌」も「原爆の日」も使わない（「被爆〇年」などの表現を用いる）年がはさまっていたため、方針変更の年は特定できませんでした。ただ、その 87 年の紙面でも、１面は「原爆の日」なのに、社会面の見出しは「原爆忌」を使っており、統一されていません**＝右図⑨**。この例から想像するに、ある年に一斉に切り替わったわけではなく、徐々に「原爆の日」を使うように変わっていったものと想像されます。

■ 縁側から子が消えている原爆忌

このように、毎日も朝日も、「原爆忌」から「原爆の日」へという流れはありますが、「原爆忌」という表現も使われ続けています。前述したように「原爆忌」は追悼や哀悼の念を核とした言葉であり、「原爆の日」とはニュアンスが違うからです。

故人への思いを伝える記事で「原爆忌」を使えば、表現の幅が広がり日本語が豊かになると、私自身は考えています。

例えば「原爆忌」は夏の季語で、俳人の坪内稔典さんの「季語集」という本（岩波新書）でも取り上げられています。二句を引用しましたが**＝右図⑩**、私は「縁側から子が消えている原爆忌」に衝撃を受けました。一瞬の閃光とともに縁側でくつろぐ子供が蒸発する。「消えている」で核兵器の非人間性を、「忌」で犠牲者への痛惜の念を鋭く表現し、一読、粛然とします。

また朝日に掲載された被爆作家・林京子さんのインタビューでは、原爆で亡くなった同級生を追悼しながら福島原発事故を語っていましたが、「死」がモチーフになったこの原稿では、見出しは「原爆忌」がなじむように思います**＝右図⑪**。

■ みんなちがって、みんないい

以上のような議論を総合した結果、毎日新聞では 2012 年に、全本支社で表記についての基本方針を策定。一般ニュースでは原則として「原爆の日」を使い、表記にばらつきが出ないようにしつつ、メッセージ性の高い記事やコラム、それに固有名詞では、「原爆忌」も使うことにしました**＝右図⑫⑬**。

これは、「被爆者」について、原則は漢字で表記しつつも、原稿によっては「ヒバクシャ」「Hibakusya」表記を認めたり**＝右図⑭⑮**、時に応じ「広島」を「ヒロシマ」「Hiroshima」と書いたりするのと似ています。反核や平和への思いが一つなら、表現は多様でいい。「みんなちがって、みんないい」（金子みすゞ）に通じる考え方だと、個人的には思っています。

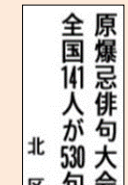
⑦ 1980年8月6日 朝日東京朝刊1面

⑧ 1987年8月6日 朝日東京朝刊1面

⑨ 同日 朝日東京朝刊社会面

（左）⑩　坪内稔典著「季語集」から

（下）⑪
2012 年８月８日
朝日大阪夕刊総合面



高浜虚子と原爆忌

（上）⑫　2018 年８月 14 日
毎日朝刊　短歌俳句面

（左）⑬　18 年９月 11 日　毎日京都版

（上）⑭06年10月22日 毎日大阪朝刊社会面
（下）⑮同年7月21日 同特集面